



西中だより

第2号 令和5年4月19日(水)

学校教育目標 「 知を磨き、豊かな心と たくましい体をもった生徒の育成 」

発行：校長 寺田 是

第77回入学式を挙行 新たに132名が 伝統ある西中の一員に

4月6日(木)に、保護者の皆さんのご出席をいただく中で、令和5年度第77回入学式を挙行了しました。

新型コロナウイルスも少しずつ収束の兆しが見えるのを受け、今回は、保護者の方の参加は2名までは可能としたこともあり、多くの保護者の方に見守っていただきながら、無事に132名の新入生を本校に迎えることができました。来賓の方の参加や3年生による歓迎合唱の披露はかないませんでしたが、ピリッとしたよい緊張感の中、西中の制服に身を包み、入場する凛々しい新入生の姿が強く印象に残りました。



式の中では、新入生代表の松木蘭実さんから、「中学校という新たな環境は不安もあるが希望や楽しみの気持ちでいっぱいである」こと、そして、「自分の目標に向かってしっかり歩んでいきたい」こと、さらには、「西中学校の伝統を守って、全ての課題に全力で取り組む」という「誓いの言葉」が述べられました。

入学式終了後は、右の写真のとおり、各学級で、担任の話や教科書の配布がありました。

新しい仲間を迎え、西中学校の令和5年度が始まりました。

4月7日 始業式 全学年がスタート

入学式翌日には、一足早く新年度をスタートした1年生に加え、2・3年生も登校し、1学期の始業式が行われました。

始業式では、各学年の代表生徒から、決意表明がありました。それぞれの学年に合った決意が述べられましたが、共通して、目標に向かって努力したい、新たなことに挑戦したい、一日一日を大切に生活したいなど、新年度の始まりにふさわしい内容でした。また、代表の生徒の話や聞く生徒の態度も立派であり、あらためて、西中の素晴らしさを実感しました。



＝生徒の皆さんへ＝

「誇れる西中」に思う……30年前にある社長さんから聞いた言葉から

始業式に続いて行われた対面式では、生徒会役員さんから、「誇れる西中」ということが話されました。その後、新入生歓迎会や先生達の話、さらには学年の掲示物などにも、「誇れる中」という言葉がよく出てきます。私も、皆さんのへの話の中で、何度か口にしました。現在の西中を表すキーワードだと私は感じています。

現在、本校では、「誇れる西中」として、特に「あいさつ、清掃、時間」に力を入れていますが、これには、「当たり前」のことを当たり前全員ができることこそがすごいこと(誇れること)である」という考えが根っこにあると思っています。

余談になりますが、私が担任だった時の話を紹介したいと思います(もう30年近く前のエピソードです)。

ある生徒が中学校卒業後に就職することになり、担任だった私は、就職予定先の会社の社長さんにあいさつ(「〇〇君(その生徒の名前)をよろしく願います」)に行きました。すると、その社長さんは、私に、「自分の会社で大切にしていることは3つです。一つめは『あいさつ』ができること、二つめは『時間』を守れること、三つめは『掃除』のような一見目立たないことを、コツコツやれることです。これらができれば、一人前になれる。」と話してくれました。

西中が大切にしている「誇れる西中」(あいさつ・時間・掃除)と一致していることに驚いています。

「誇れる西中」に取り組むことは、社会に出た時に大切な力を身に付けることにつながると、あらためて思っています。

